



## 年次活動実績報告

研究活動報告 (設置申請書, 継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。)

主として、データビジネス創造コンソーシアムの事務局として活動した。

### ○ データビジネス創造コンテストの実施

＜第13回データビジネス創造コンテスト＞

株式会社Mobility Technologiesをビジネスパートナーとして、第13回データビジネス創造コンテストを実施した。第13回データビジネス創造コンテストは、「モビリティデータが作るスマートシティ」をテーマとして、タクシー乗降件数に関する統計情報、ドライブレコーダー画像や独自に収集したデータを多角的に分析し、未来の生活をよりよくする提案を募集した。コンテストには61チームのエントリー、45チームの予選資料提出、10チームの本選参加（うち2チームが高校生）があった。最優秀賞は「SmaEva モビリティデータでハザードマップを作る」と題したプレゼンテーションを行った慶應義塾湘南藤沢高等部のチーム「EGGPs」であった。

参考: <http://dmc-lab.sfc.keio.ac.jp/dig13/>

＜第14回データビジネス創造コンテスト＞

株式会社NTTぷららをビジネスパートナーとして、第14回データビジネス創造コンテストを実施した。第14回データビジネス創造コンテストは、「日本から発信！コンテンツデータを活用した新たなライフスタイルのカタチ」をテーマとして、多種多様なコンテンツデータの分析を通じ、現代の人々が何に心惹かれ、何を欲しているのか読み解き、誰も想像したことのない日本発の新たなライフスタイルの提案を募集した。コンテストには33チームのエントリー、20チームの予選資料提出、11チームの本選参加（うち4チームが高校生）があった。最優秀賞は「『プレイリスト』で新しい出会いを『知る』 SNS プレシル」と題したプレゼンテーションを行った大阪大学の「チーム阪大」であった。

参考: <http://dmc-lab.sfc.keio.ac.jp/dig14/>

### ○ 勉強会の実施

慶應義塾内外の高校生、大学生、大学院生およびコンソーシアム参加者にむけた勉強会を5回開催した。

第23回勉強会を5月20日にオンラインで実施した。「モビリティ業界のDXとMobility Technologiesの取り組み」と題して株式会社Mobility Technologiesの眞井卓弥氏と長谷歴氏に講演をお願いした。

第24回勉強会を7月10日にオンラインで実施した。「テクノロジーとWellbeing～予測不能の時代の幸せ～」と題して、株式会社日立製作所、株式会社ハピネスプラネットの矢野和男氏に講演をお願いした。

第25回勉強会をデータサイエンティスト協会との共催で10月9日にオンラインで実施した。「マーケティング実務のデータサイエンスを掘り下げる」と題してTwitter Japan株式会社、株式会社野村総合研究所、株式会社電通の4氏に講演とパネルディスカッションをお願いした。

第26回勉強会を10月22日にオンラインで実施した。「デジタル庁について」と題して、デジタル庁の犬童周作氏に講演をお願いした。

第27回勉強会を11月5日にオンラインで実施した。「日本復活！！コンテンツの力で世界を変えるような新たなライフスタイルを考えてみませんか？」と題して株式会社NTTぷららの原田 宙氏と伊澤諒氏に講演をお願いした。

第28回勉強会を11月19日にオンラインで実施した。「生活者大規模マーケティングデータ『ACR/EX』について」と題して、株式会社ビデオリサーチの中山不尽子氏に講演をお願いした。

第29回勉強会を1月14日にオンラインで実施した。「ちゅらデータ設立の経緯と実情」と題して、ちゅらデータ株式会社の眞嘉比愛氏に講演をお願いした。

### ○ スキル養成講座の実施

2021年度から高校生・大学生・大学院生を対象に「データサイエンティストに大切な具体的な分析スキルなどを身につけるため」の基礎的な講座として「スキル養成講座」を3回実施した。

第1回は、「データサイエンティストに必要なスキルと、分析プロジェクトを成功させるための上流工程のポイント」と題して、アクセンチュア株式会社の赤石雅典氏からご講演いただいた。

第2回は、「バイズ理論からはじめる機械学習&深層学習」と題して、アクセンチュア株式会社の須山敦志氏からご講演いただいた。

第3回は、「社会科学におけるデータサイエンスの応用：因果効果の推定を中心に」と題して、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任助教の中島有希大氏にご講演いただいた。

### ○ Slackワークスペースの運営

生徒・学生、教員、企業間でのコミュニティの形成の一環として、データサイエンス分野のコミュニティ構築の必要性を検討し、新型コロナウイルスの影響で直接交流できる場の提供が難しい現状を鑑み、2021年3月に Slackワークスペースを利用したコミュニティを設置。随時、コンテスト、勉強会等の情報を発信している。3/31時点の参加者は162名。

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

特になし